

盛岡芸妓文化の継承をめざして

▽芸妓見習い「ひよ妓」に応募

私たち盛岡芸妓見習いの「ひよ妓」ふたりは、平成27(2015)年夏に盛岡芸妓後援会が公募した芸妓見習いに応募し、それまで全く無縁だった芸妓の世界に飛び込みました。

喜久丸は、生まれも育ちも盛岡ですが、小さいころからテレビで見る芸妓の世界や芸者さんの華やかさに憧れを持っていました。応募当時は大学4年生で就職活動の最中でしたが、募集のポスターを見て心を動かされ、両親からも勧められ、応募しました。

まり佳は、雫石町で生まれ、幼いころから民謡は踊っていました。三味線などの楽器にも興味を持つようになり、高校3年生ででしたが、母親と募集の新聞広告をみて、日本舞踊や三味線を覚えることができる機会になると考え応募しました。

採用面接には三味線を習っている人や、年

齢も出身も様々な人がきており、何ひとつ芸事は習っていない私たちが受かるかどうかとても心配でしたが、ありがたいことに、地元出身の私たち二人を採用していただき、ひよ妓としての歩みを進めることになりました。

▽初稽古からお披露目の会へ

採用の決定をいただいた後は、着物などの準備をしていただいて、9月から初稽古がはじまりました。

とはいっても、着物の着方をはじめ、何から何まで知らない私たちは、見るもの、なすこと、全てが初めての経験で、「こういうものだよ」と言ってお教えてもらうところから始まる、ほんとうに初歩の初歩からのお稽古でした。

お稽古は主に5人の先輩芸妓のお姐さん方から教わりますが、お姐さん方は小さいころからお稽古してきたのに比べ、私たちは花柳界のルールが全く分かりません。始めたば

かりのころは、「なんでこんなこともできないんだ」とよく叱られました。叱られても何を叱られているのかわかりませんでした。

そんな状況でしたので、今振り返ると、お姐さん方にはご苦労をおかけしました。一方で私たちには、とも千代姐さんと富勇姐さんという、年の近い先輩のお二人がいました。とても心強く、様々な場面で助けていただきました。

そして、初稽古から9ヵ月が経った翌年6月に、盛岡市内のホテルで私たちのお披露目の会を開催していただき、「喜久丸」「まり佳」の芸名を襲名いただきました。

それまで、見習いとしてお座敷に出させていただいたこともありましたが、白塗りをしてお客様の前で芸を披露したのは、お披露目の会が初めてでした。お客様が大勢いらっしやる前での披露目でしたので、緊張のしっばなしで無我夢中でした。二人とも、どのように踊ったのか全く覚えていません。それ



盛岡芸妓 ひよ妓
(芸妓見習い)

喜久丸 (右)
まり佳 (左)

でも、芸名をいただき、芸妓としての自覚ができて、大きな節目になったと思っております。

▽お姐さん方から教わった盛岡芸妓の魅力

お披露目の会は終わっても、まだまだ生まれて9カ月の1歳にもならない「ひよ妓」です。その後も踊りのほか、三味線などの楽器や長唄、小唄もお稽古しながら芸を磨いてきております。

そして、お稽古を続けながら盛岡芸妓の歴史も学び、お稽古を通してその魅力を知ってきました。

盛岡芸妓には、芸者さんを料亭などに派遣する置屋（わきや芸者屋）さんがありません。芸妓のお姐さん方お一人お一人が芸を絶やさずに守ってこられました。そして今、私たちに芸を残したい、次に繋ぎたい、という思いで教えてくださっています。全国各地には芸妓が途絶えたところが多く、今また復活の動きも出てきていますが、私たちには絶えることのない伝統の芸を直接学べる素晴らしい環境があります。置屋さんがいないなかで繋いできたのも、盛岡芸妓のお姐さん方お一人お一人のお力があったからこそだと思います。

お稽古をしながら、お姐さん方の体の使い方、表情、目線など、芸の深さを教わりました。お座敷でのお話とその場の華やかさ。舞踊と言っても、日本舞踊の先生とお座敷での

芸者さんの踊りはまた少し違います。その魅力を直接見て学ぶことができるのです。

▽盛岡芸妓の価値を伝えるために

芸妓の世界に飛び込んで、今年で4年になります。やっと全体像が分かってきたのかな、と思っております。

今は「ひよ妓」としてまだまだ芸を磨き続け、一本立ちを目指して頑張らなければなり



お披露目の会の「ひよ妓」

ません。それははるかかなたで、まだまだ見えてこない状況です。そして不安もあります。今は見習いですので、ほかに仕事をしながらお稽古をしていますが、一本立ちをするに芸妓に専念しなければなりません。後援会から頂いている化粧代や着物の修繕費もすべて自賄いとなります。一本立ちするとまた気持ちも新たになると思いますが、その覚悟が必ずです。

お金と時間をかけていただきここまで学んできた伝統や文化、芸事を多くの方に見てもらって、楽しんでもらって、その価値を知ってほしい。私たち「ひよ妓」も、観光や各種イベントなど、いろんな場所に向いて頑張って演じさせていただき、盛岡芸妓を知るきっかけとなることで、多くの方が優美なお姐さん方のお座敷の姿を見ていただくようになってほしいと願っております。

また、私たちと同じ年代の方からは、「そのお仕事必要なの?」と言われて、とても残念に思うのですが、私たちも時間をかけてその価値を理解してきましたので、若い人たちにも何度も見てください。そして、私たちの後に「ひよ妓」となる若い子たちの希望となれるような環境づくりをしていきたいと思っております。

皆様もぜひ一度、盛岡芸妓に会いに、遊びに、いらしてください。